

HCD-Netのご紹介

教育関係者の 皆さんへ



Q. HCDを学ぶにはどうすればいい？

Q. HCDの効果的な教育方法は？

Q. HCD分野での研究アプローチの方法は？

Q. HCDを学ぶにはどうすればいい？

A. HCD-NetのWeb Siteで情報を提供しています。またHCD-Netが企画した『HCDライブラリー』をはじめとした書籍や、HCD-Net主催のセミナーでも学ぶことができます。人間中心の哲学を持ち、HCDに必要なプロセス・ツールやスキルを身に付けた人材をめざしましょう。

HCD-NetのWeb Siteでは、HCD専門家たちが思い思いにHCDを考察する『HCDコラム』で多様な記事を公開しています。また『ユーザ工学入門』、『組み込み技術者のためのユーザビリティ基礎講座』といった特定分野の記事もご用意しています。これらの記事を通じて「HCDとはどういうことか?」、「実際にどのように使われているか?」といった基礎を学べます。費用はかかりませんので、手軽に活用してください。今後は、初心者のためのコンテンツをさらに充実させる予定ですのでご期待ください。

HCDについては関連書籍が多数出版されており、お勧めの書籍はHCD-NetのWeb Siteで紹介しています。さらにHCD-Net

でも『HCDライブラリー』（出版：近代科学社）を企画しており、『人間中心設計の基礎』・『人間中心設計の海外事例』・『人間中心設計の国内事例』など、さまざまなテーマでシリーズ化しています。これからも刊行していきますので気になるテーマについては、目を通しておきましょう。

Web Siteや書籍の他、セミナーやイベントに参加して学びを深めることも有効です。HCD-Netでは「教育セミナー」や「HCD-Netサロン」など、HCDの基礎を学べるイベントを頻繁に開催しています。こうしたイベントではHCDの専門家や関係者と知り合うことができ、より多くの学びを得ることにつながります。

ご存じの通り、昨今は革新的な技術やサービスが次々に誕生していて、それに伴い、ユーザーの使い勝手や利便さがますます重要視されています。「ユーザビリティ」、「ユーザエクスペリエンス」、「デザイン思考」といった言葉をよく耳にするようになりましたが、これらすべての基礎となるのがHCDです。まずはHCDをしっかり学びましょう。

Q. HCDの効果的な教育方法は？

A. 効果的な教育には、HCDの知識習得とHCDの実践の両輪が必要です。座学に加え、ワークショップなどを通して、まずは体験してみることも大切です。

当たり前のことですが、まずは教員の皆さんがHCDを習得すること。特に「効果的なモノやサービスを生み出すには、ユーザーと一緒につくっていく」というHCDの根幹となる考え方をしっかり理解することが必要です。その上で教員にとっての効果的な教育方法を考えてみましょう。

HCDには「哲学（考え方）」と「プロセス・手法」という2つの側面があり、これらは別々に教えることが基本です。そして哲学、プロセス・手法ともに、効果的に学ぶには「知識習得」と「実践」の両輪が欠かせません。知識を教えるには、書籍『人

間中心設計の基礎（HCDライブラリー）』を活用して、講義をするのがいいでしょう。実践ではワークショップなどを設けて、座学で得た知識を活用しながらHCDを体験します。

例えば

- ・ドリップバッグコーヒーをセットするところから飲み終えるまでの一連の動きを観察して、問題点を探り、改善点を考える
 - ・「お年寄りの役に立つ商品を開発する」といった最終目標を設定し、対象ユーザーに話を聞きに行く
- といった方法があります。

前者は行動観察を体験する代表的なワークショップで、1時間程度でできる簡単なものです。後者はインタビュー手法を体験する例として挙げていますが、単に話を聞くのではなく、商品開発といった具体的なゴールを設定した上で、必要な要

件を見つけるために、実際のユーザーに対して上手に質疑を行うことがポイントとなります。

実は、学生に教えるという行為もHCDそのものです。「学生たちにとって最適な教育とは何か?」、「どうすれば興味を持ってもらえるか?」といった課題をお持ちの方も多いでしょう。

そこにHCDの考え方を活用するのです。学生たちの思考や興味、不満などをインタビューし、教材や講義に関して行動調査してみたいかがでしょう。教員のひとりよがりにならない教育環境を学生に提供できるよう、学生と一緒に試行錯誤しながら、教員もHCDを実践しましょう。

Q. HCD分野での研究アプローチの方法は?

A. HCDに関連する書籍や論文の購読と、HCD-NetのSIG (Special Interest Group) などの研究グループや研究発表会に参加することから始めましょう。

『HCDライブラリー』などの専門書籍に目を通し、HCD-Netから出ている論文誌を購読することから始めましょう。現在どのような研究が行われているのか、過去にどのような研究があったのかを知ることが、研究を始める第一歩だからです。(※論文誌の購読には、HCD-Netへの入会が必要です。)

研究の動向を把握したら、自分たちの研究を進めるにはどうしたらいいのか? というステップに移ります。HCD-Netの中にあるSIG (Special Interest Group) などの研究グループに参加するのがお勧めです。

現時点では「SF-SIG」や「感性SIG」、「利用品質メトリクスSIG」など多様なSIGがあり、さまざまな議論が展開されています。また、年に2回開催されているHCD-Netの研究発表会に参加するのもいいでしょう。研究者たちの生の声を聞けるだけでなく、HCD専門家と情報交換できるなど知識を深める絶好の場となっています。

ゆくゆくは自分の研究を発表しましょう。HCD-Netの研究発表会で発表をして、他の研究者たちから意見をもらうことでより成果につながります。さらに研究を深めるためには、国際学会などで発表したり、論文誌に投稿することが大切です。

HCD-Netでは、これまでまとまった組織や論文がなかったHCDの研究分野を統括し、HCDに特化した研究の場を設けています。ぜひ活用ください。



教育のデザイン

HCDは教育分野で活用することもできます。ユーザーである学生や受講者にとって、どのような教育方法をしたら最善かを検討するためにHCDのサイクルや手法を活用してみましょう。学生や受講者にインタビュー調査やユーザビリティ調査を実施し、教育方法を企画して、実験的に教育を行い、ユーザー評価によって教育方法を改良します。

また、近年は教育環境にも大きな変化があり、次世代の教育についても多様な場所で議論されています。未来の教育に

ついて考えるにあたり、HCD/UXDを活用することでビジョンを提案したり、未来の教育に対するアプローチの検討ができます。教育関係者が教育のデザインにHCD/UXDを活用することが広まるといいですね。



HCD-Netのめざす社会

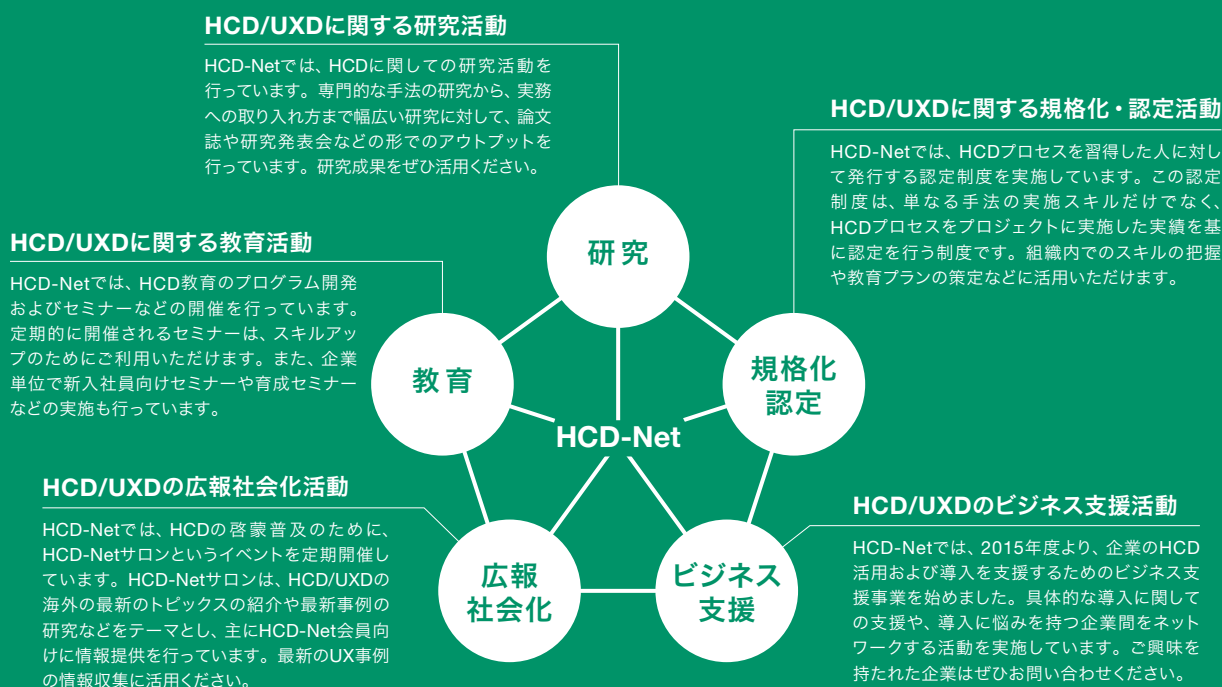
HCD-Netは、HCDやユーザエクスペリエンスデザイン（以下、UXD）に関する学際的な知識を集め、産学を超えた人間尊重の英知を束ね、HCD/UXD導入に関するさまざまな知識や方法を適切に提供することで、多くの人々が便利に快適に暮らせる社会づくりに貢献します。あわせて経済の発展への寄与と、豊かでストレスのない実りある社会の実現をめざします。

教育関係者におけるHCD-Netの役割

HCD-Netでは、研究事業部を中心に研究活動を推進しています。具体的には研究発表会、研究誌発行、SIGなどの活動です。また、教育事業部では、多様なセミナーを実施しながらHCD/UXDを学ぶことができます。広報社会化事業部ではHCD-Netサロンなどで「未来の教育」に関するイベントなども開催しています。

HCD-Netの5つの活動領域

HCD-Netでは、研究分野、規格化・認定活動、ビジネス支援、広報社会化、教育活動の5つの領域を設けて活動しています。商品・サービスのユーザビリティを向上させる人間中心設計の講演会、セミナー、調査・研究、コンサルテーション、評価・分析、設計・開発支援などに関する事業活動により、広く公益の増進に寄与します。



β版カタログへのご意見・ご要望お待ちしております

本カタログはプロトタイプとして作成したβ版です。よりよいカタログにするために、ご利用いただいた皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。メールにてご連絡ください。

なおカタログでは「スタートアップ・新規事業」、「ITシステム・製造業」、「Web・アプリケーションの企画・開発」、「マネジメント・経営」、「教員関係者」、「行政・公共サービス」「HCD/UXDの実践者」という分野ごとに作成しています。

■お問い合わせ

特定非営利活動法人（NPO法人）人間中心設計推進機構 事務局

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜3-7-18

第2上野ビル7階 エキスパートオフィス新横浜

TEL: 090-8170-2027

e-mail: secretariat@hcdnet.org

www.hcdnet.org